

## 第31回関東甲信越性教育研究大会 兼 全性連関東甲信越ブロック大会) 報告

長野県性教育研究会  
会長 渡邊 智子

2023年11月11日、長野市で第31回関東甲信越性教育研究大会長野大会を開催いたしました。長野県性教育研究会は会員のほとんどが、医師、助産師、保健師、看護師など医療福祉関係者のため、コロナ禍においてはその対応に追われ、私的な会合の出席は禁止されており、集まることもままならない状況でしたが、数年ぶりに集まり、この大会の準備をしてきました。今回大会テーマを「自分・社会・未来につながる性教育とは」～楽しく伝え、学べる性教育を目指して～としました。コロナの感染が広がる中で、子どもたちの日常生活は激変し、学校に行かれず、友人と語らうことも許されない環境で、我慢を強いられてきました。しかしだからこそ、自分の身体の健康や心の安定を自分で守っていくことの大切さを伝える性教育は、今まで以上に大切になると考え、プログラムを構成しました。

基調講演には東京大学 医科学研究所教授 武藤 香織先生をお迎えして「偏見・差別の明日はどっちだ!？」とのテーマで、先生の生い立ちから、長年難病の患者さんや困難を抱える患者さんを、偏見や差別から守るために尽力されてきたお話、またコロナの対策でも感染拡大防止のため、隔離が前提であっても、家族や人らしい生活を失わないよう助言されてきたこと、ゲノムをわかりやすく解説するなど、大変示唆に富んだ内容のご講演でした。

ランチョンセミナーでは、今年長野市を中心に募集して、久しぶりに行った、大学生のピア・カウンセラー養成講座を受けた大学生たちが、初めて大勢の方を前にコンドームの正しい使い方をレクチャーしました。動画も自分たちで作り、大変わかりやすく、初めてとは思えないほど、堂々と発表しました。



午後は長年松本市で、人形劇や紙芝居を用いて、「性・人権・命のメッセージ」を小さな子どもから、外国の方々にまで伝え続けてきた、木島 知草さん(ちいばあ)の人形劇と心に響く語りを、託児でお預かりしていた小さな子どもたちも一緒に楽しみました。かわいい手袋人形が登場すると、子どもたちも笑顔で見入っていました。性教育はこんな小さな子たちにも、工夫すれば伝えることができるのだと、大人も童心にかえって体験できたと思います。また木島さんは所有している、HIV患者さんが残したキルトのメッセージも、展示してくださいました。多くの方に見ていただけて感謝しています。

最後のプログラムは、長野県の保健師さんたちが中心となって、20年間取り組んできた、ピア・カウンセラー養成講座の歴史の紹介と、集まった卒業生に、ピア養成講座を受講して、自分の人生にどのような変化をもたらし、今どのような思いで生活しているかを座談会方式で語り合ってもらいました。1回の講座で約30名が受講し、延べ600名ほどの学生が、長野県内外でそれぞれ学んだことを生かしながら頑張っている姿を見ることができ、その成長に心が熱くなりました。

約120名の参加をいただき、無事大会を開催できましたことをここにご報告させていただきます。